

中国における日本への新華僑の送出システムに関する研究

著者	山下 清海
著者別名	Yamashita Kiyomi
発行年	2013
その他のタイトル	A study on migration system of Chinese newcomers from China to Japan
URL	http://hdl.handle.net/2241/120861

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21401035

研究課題名（和文） 中国における日本への新華僑の送出システムに関する研究

研究課題名（英文） A study on migration system of Chinese newcomers from China to Japan

研究代表者

山下 清海（YAMASHITA KIYOMI）

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：00166662

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国から日本へ大量に送出される新華僑の送出システムを解明することを目的とした。予備調査にもとづいて、福建省福州市管轄下の福清市、浙江省温州市近郊の麗水市青田県、および黒竜江省ハルビン市方正（ほうまさ）県を研究対象地域として選択し、インテンシブな人文地理学的な調査を実施した。その結果、中国の「僑郷」（華僑の故郷）から新華僑がいかにして日本へ送出されるのかが明らかになった。

研究成果の概要（英文）： This study was intended to clarify migration system of Chinese newcomers China to Japan. Basing on our preliminary investigation, we chose Fuqing City of Fuzhou Metropolitan in Fujian Province, Qingtian County of Lishui City (near Wenzhou City) in Zhejiang Province, and Fangzheng County of Harbin City in Heilongjiang Province, as study areas, where we carried out intensive human geographical fieldworks. As a result, the mechanism how Chinese newcomers migrated from their hometowns in China to Japan was revealed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2012年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
総計	11,500,000	3,450,000	14,950,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文学 C・人文地理学

キーワード：人文地理学，エスニック地理学，移民，中国，華人，新華僑，在日中国人，在日外国人

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の山下清海は、これまで日本・東南アジア・北アメリカ・南アメリカ・ヨーロッパ・オセアニアなどにおける華人社会の人文地理学的研究に従事してきた。これらの研究成果は、すでに『東南アジアのチャイナタウン』（古今書院，1987年，単著），『シンガポールの華人社会』（大明堂，1988年，単

著），『チャイナタウン—世界に広がる華人ネットワーク』（丸善，2000年，単著），山下清海編『華人社会がわかる本—中国から世界へ広がるネットワークの歴史，社会，文化—』（明石書店，2005年）の単行本として公開している。

また、これらと並行して、多数の華僑を海外に送り出してきた中国国内の「僑郷」（華

僑の故郷)とよばれる移民母村の調査を行ってきた。その成果の一部は、『東南アジア華人社会と中国僑郷—華人・チャイナタウンの人文地理学的考察—』(古今書院, 2002年, 単著)として発表した。

平成18年からは, 科学研究費基盤研究(B)(平成18~20年)の助成を受けて, 「増加する華人ニューカマーズの中国における送プロセスの解明」という課題で, 中国国内において新華僑に関する調査を実施した。この研究では, 主として福建省, および東北3省(黒龍江・吉林・遼寧)において調査を行った。この調査の過程で, 1980年代以降, 在日新華僑の主要な送地域が東北3省であり, ハルビン・大連・瀋陽・長春・延吉などでは, 新華僑を日本へ送り出す地域的なシステムが機能していることが, しだいに明らかになってきた。新華僑の送地域における調査は, 中国国内のフィールドワーク(野外調査)の難しさや統計・文献等の不足などにより容易ではないが, この研究で, 中国国内において研究協力者を得ることができ, さらに研究を深化することができる準備が整ってきたので, 本研究を立案した。

2. 研究の目的

法務省の「在留外国人統計」によれば, 1959年の統計開始以来, 日本における在留外国人の中では, 韓国・朝鮮人が最多を占めてきた。しかし, 2007年末には, 韓国・朝鮮人(593,489人)を抜いて, 中国人(606,889人)が初めて最多となった。改革開放政策の進展に伴い, 特に1980年代以降, 来日する中国人が増加した。彼らは「新華僑」とよばれ, 今日, 新華僑の人口は「老華僑」の10倍以上にも達している。このような新華僑に関する総合的な研究は, 国際化が進む日本社会においてきわめて重要な意義をもつ。

そこで本研究は, 中国から日本へ送られる新華僑が, どのような送システムによって来日するのかを, 中国国内におけるインテンシブなフィールドワークに基づいて解明することを目的とした。

3. 研究の方法

新華僑の日本への送システムを明らかにするために有効な統計や文献などは乏しい。このため, 本研究では, 中国においてインテンシブなフィールドワークを重視した。フィールドワークでは, 在日新華僑の留守家族, 海外留学・出稼ぎを斡旋する業者・学校, 日本からの帰国者, 市・県などの自治体, 華僑関係団体などからの聞き取り調査が中心となった。

これまでの中国における調査経験から, 一つの調査対象地域に入って, 共同で調査を実施する際に, メンバーが多数である場合には,

団体, 家庭, 個人からの聞き取り調査では, やむを得ず複数の班に分けざるを得なかった。可能な限りメンバーが, 現地で意見交換しながら常に共同で調査を実施していくためには, 4名以内が適当であると判断し, 本研究組織は4名から構成することにした。また, 本研究では, 統計や文献などからはわからない部分を, 中国語通訳を介せずに聞き取り調査を実施した。

研究メンバーは, 共同で現地調査を実施するものの, それぞれの専門を活かして, 以下のような役割分担のもとに研究に取り組むことにした。

- ・山下清海: 在日新華僑と新華僑送地域の社会経済的相互関係に関する考察, およびエスニック地理学的視点から, 日本への新華僑送における漢族と朝鮮族の比較考察
- ・小木裕文: 新華僑送地域における教育, 日本留学に関する考察
- ・張 貴民: 農村地域における新華僑の送に関する考察
- ・杜 国慶: 都市地域における新華僑の送に関する考察

これまでの中国における予備調査の経験にもとづいて, 新華僑を多数送してきた福建省福清市, 浙江省温州市近隣の青田県, および黒龍江省ハルビン市方正県を主要な調査対象地域に選定し, インテンシブな調査を実施した。

同時に日本国内においても, 来日の経緯, 日本での居住・就業形態, 中国の出身地とのネットワークなどについて, 新華僑から聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

まず, 本研究で実施した中国の3つの事地域における研究成果について述べる。

①福建省北部の福清市に関する研究成果

福清市は, 第二次世界大戦前から在日老華僑の主要な僑郷の一つであった。

1980年代後半~1990年代前半における福清出身の新華僑は, 比較的容易に取得できた就学ビザによる集団かつ大量の出国が主体であった。来日後は, 日本語学校に通いながらも, 日本渡航費用, 学費などの借金返済と生活費確保のために, しだいにアルバイト中心の生活に移行し, ビザの有効期限切れとともに不法残留, 不法就労の状況に陥る例が多かった。帰国は, 自ら入国管理局に出頭し, 不法残留であることを告げ, 帰国するのが一般的であった。

1990年代後半以降には, 福建省出身者に対する日本側の審査が厳格化された結果, 留学・就学ビザ取得が以前より難しくなり, 福

清からの新華僑の送出先としては、日本以外の欧米、オセアニアなどへも拡散している。在日の新華僑が僑郷に及ぼした影響としては、住宅の新改築、都市中心部への転居、農業労働力の流出に伴う農業の衰退と福清の外部からの労働人口の流入などが指摘できる。また、新華僑が日本で得た貯金は、彼らの子女がよりよい教育を受けるための資金や、さらには日本に限らず欧米など海外への留学資金に回される場合が多く、結果として、新華僑の再生産を促す結果となった。

②浙江省温州市郊外の麗水市青田県に関する研究成果は、以下の通りである。

山間に位置し貧困であった青田県からは、清朝末期には、特産品である青田石の加工品を販売するため、陸路でシベリアを経てヨーロッパに出稼ぎする者も少なくなかった。清朝末期には、ヨーロッパよりも日本へ出稼ぎに出る者が増加した。しかし、関東大震災の発生後、日本への出稼ぎの流れは途絶え、青田人の主要な出国先は、ヨーロッパになっていった。

中国の改革開放政策の進展に伴い、海外渡航者が急増し、青田県では出国ブームが起こった。その主要な渡航先はスペイン、イタリアを中心とするヨーロッパであった。海外在住者からの送金・寄付・投資などにより、僑郷である青田県の経済は発展した。ヨーロッパ在住者やヨーロッパからの帰国者の影響は、僑郷の景観や住民のライフスタイルにも現れている。

③黒竜江省ハルビン市方正県の研究結果

方正県の日本との関わりは、1931年の満州事変後、日本の満蒙開拓団の入植に始まる。1945年8月の終戦時には、周辺地域から開拓団の老人、婦女、子供など1.5万人あまりが、方正県内の開拓団本部に避難して来た。そのうち、約5,000人が死去し、約4,500人の婦女、子供が方正県に残留した。

1972年の日中国交回復後、日中両国間の交流が活発化し、1981年から中国残留孤児・訪日肉親捜しが開始された。その結果、方正県在住者で、中国残留日本人として認められた者が、家族を連れて日本に帰国した。その後、方正県から日本へのチェーン・マイグレーションにより、方正県出身者が日本に多く居住するようになり、在日新華僑の僑郷に発展していった。

方正県では、僑郷ならではの特色がみられる。方正県の行政側は、僑郷の特色を活かして、在日新華僑の投資を呼び込んで、都市再開発計画を進めている。その一つの現れとして、方正県の中心市街地の店舗の看板には、日本語が併記されるようになった。また、方正県は水稲作が非常に盛んな地域であり、そこで栽培される水稲は、「方正大米」（「大米」は米の意味）として、中国国内でブランド米

となっている。これは、高度な寒冷地稲作農法を指導した日本の援助によりもたらされたものである。さらに、方正県出身女性が日本人男性と結婚して来日する例が非常に多く見られるのも大きな特色である。

④総合的な研究成果

日本における新華僑は、1980年代後半以降急増した。初期は、上海市や福建省福清市周辺地域からの就学生が中心であり、その多くは出稼ぎ目的であった。当時の日中両国間の経済格差や両国の近接性、およびバブル経済期の日本国内の労働不足などが新華僑の日本への送出を助長した。中国側には、日本語学校・日本渡航を斡旋する業者の介在が、新華僑の送出にとって重要な役割を果たした。

1990年代以降、在日新華僑の中には、中国の東北地方出身者が増加した。東北地方は、1932年から1945年の終戦まで、「満州国」として日本によって占領され、日本語教育が実施された。中華人民共和国成立後も、東北地方は中国における日本語教育の中心地域であった。経済発展が著しい中国の沿海地域では、欧米への関心が高いのに比べると、東北地方は日本への関心が高い地域であるといえる。旧満州の日本語教育の伝統と、日本語と朝鮮語には類似点が多く、日本語学習で有利な中国朝鮮族の存在が、東北地方から日本への渡航者の増加の重要な要因になった。

在日新華僑による中国の僑郷への送金や投資は、僑郷の経済発展において重要な役割を果たしている。また、僑郷と日本とのネットワークの強化は、新たな新華僑の送出を促している。ハルビン市方正県のように、方正県在留の女性が、日本人男性との国際結婚という形式で、在日新華僑となる事例も多くみられる。

中国人の海外出稼ぎ・留学の渡航先としては、1980年代後半は、中国に近い日本が重要であった。しかし現在、中国人にとって、渡航先の選択肢が増えている。外国語学校や留学・海外労働の斡旋業者では、主要な渡航先であった日本から、欧米・韓国・シンガポールなどに移っている。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究では、新華僑の送出システムを、中国におけるインテンシブな人文地理学的調査によって解明したものであり、多くのオリジナルな成果を含んでおり、事例地域の具体的な分析は、先行研究でも乏しい。

また、中国の研究者のように、過度な政治的配慮を必要としない日本人の立場から、僑郷の実情や近年の変容を明らかにしたことも重要な成果と言えよう。

新華僑が中国の僑郷から送出されていく過程やその要因、僑郷と海外在留の新華僑と

のネットワークを、福建省、浙江省、黒竜江省の調査対象地域の事例を通して明らかにしたことは、国内外の先行研究と比べても重要な貢献と言えよう。

(3) 今後の展望

本研究で得られた成果の一部は、すでに論文として公表している。今後は、加筆修正の上、1冊の学術書として公刊することを予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

① 山下清海・小木裕文・張 貴民・杜 国慶 : (2012) : 浙江省温州市近郊青田県の僑郷としての変容—日本老華僑の僑郷からヨーロッパ新華僑の僑郷へ. 地理空間, 5(1), 1-26. <査読有>

http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~yamakiyo/qingtian_chirikukan.pdf

② YAMASHITA Kiyomi (2011) : Ikebukuro Chinatown in Tokyo: The First New Chinatown in Japan. *Journal of Chinese Overseas*. 7(1), 114-129. <査読有>

③ 杜 国慶 (2011) : 中国の労働力創出に関する考察. 立教大学観光学部紀要, 13, 10-24. <査読無>

④ 山下清海 (2011) : 世界のチャイナタウンからみた横浜中華街. 地図中心 (日本地図センター), 2011年12月号, 21-23. <査読無>

⑤ 齋藤譲司・市川康夫・山下清海 (2011) : 横浜における外国人居留地および中華街の変容. 地理空間, 4(1), 56-69. <査読無>

⑥ 山下清海・小木裕文・松村公明・張 貴民・杜 国慶 (2010) : 福建省福清出身の在日新華僑とその僑郷. 地理空間, 3(1), 1-23. <査読有>

<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~yamakiyo/Fuqing-chirikukan3-1.pdf>

⑦ 張 貴民 (2010) : 僑郷における農村景観と農業—福建省福清市を例として—. 愛媛大学教育実践総合センター紀要. 12, 1-11. <査読無>

⑧ 山下清海 (2009) : インドの華人社会とチャイナタウン—コルカタを中心に—. 地理空間, 2(1), 32-50. <査読有>

<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~yamakiyo/chirikukan2-1.pdf>

[学会発表] (計8件)

① 山下清海・張 貴民・杜 国慶・小木裕文 :

在日新華僑の出身地としてのハルビン市方正県の地域性(1)—「中国北方僑郷」の形成—. 日本地理学会春季学術大会, 2013年3月29日, 立正大学熊谷キャンパス

② 張 貴民・山下清海・杜 国慶・小木裕文 : 在日新華僑の出身地としてのハルビン市方正県の地域性(2)—農村部を事例として—. 日本地理学会春季学術大会, 2013年3月29日, 立正大学熊谷キャンパス

③ 杜 国慶・山下清海・張 貴民・小木裕文 : 在日新華僑の出身地としてのハルビン市方正県の地域性(3)—僑郷の社会経済状況と日本語教育—. 日本地理学会春季学術大会, 2013年3月29日, 立正大学熊谷キャンパス

④ 山下清海 : ヨーロッパにおける新華僑のホスト社会への適応様式. 人文地理学会例会, 2012年12月1日, 奈良教育大学

⑤ 山下清海・張 貴民・杜 国慶・小木裕文 : 浙江省温州市近郊, 青田県の僑郷としての変容(1)—伝統的僑郷としての地域的特色—. 日本地理学会春季学術大会, 2011年3月29日, 明治大学

⑥ 張 貴民・山下清海・杜 国慶・小木裕文 : 浙江省温州市近郊, 青田県の僑郷としての変容(2)—農村部を事例として—. 日本地理学会春季学術大会, 2011年3月29日, 明治大学

⑦ 杜 国慶・山下清海・張 貴民・小木裕文 : 浙江省温州市近郊, 青田県の僑郷としての変容(3)—僑郷の街づくりと都市空間的特色—伝統的僑郷としての地域的特色—. 日本地理学会春季学術大会, 2011年3月29日, 明治大学

⑧ 山下清海 : 池袋チャイナタウンの今日的状況. 日本地理学会 2010年春季学術大会エスニック地理学研究グループ集会, 2010年3月28日, 法政大学

[図書] (計4件)

① Wong, Bernard P. and Tan Chee-Beng eds. (2013) : *Chinatown around the world: Gilded ghetto, ethnopolis, and cultural diaspora*. Brill, Leiden, The Netherlands, 247-262 所収, YAMASHITA Kiyomi : Ikebukuro Chinatown in Tokyo: The First "New Chinatown" in Japan.

② 山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 (2013) : 『日本の地誌2 日本総論II (人文・社会編)』[第2刷(追補版)], 朝倉書店, 575-579 所収, 山下清海 : 東京のエスニックタウン—池袋チャイナタウン—.

③ 山下清海編 (2011) : 『現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ—』学文社, 213頁.

④ 山下清海 (2010) : 『池袋チャイナタウン—都内最大の新華僑街の実像に迫る—』洋泉社,

191 頁.

[その他]

研究代表者のホームページ

<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~yamakiyo/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下 清海 (YAMASHITA KIYOMI)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：00166662

(2) 研究分担者

小木 裕文 (OGI HIROFUMI)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70160786

張 貴民 (ZHANG GUIMIN)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：50291620

杜 国慶 (DU GUOQING)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：40350300